

平成 16 年 10 月 28 日

各 位

株式会社アルプス技研  
(コード番号：4641 東証二部)  
総務部 広報グループ

平成 16 年 12 月期第 3 四半期 (平成 16 年 1 月 1 日から平成 16 年 9 月 30 日まで) の業績について

株式会社アルプス技研の平成 16 年 12 月期第 3 四半期 (平成 16 年 1 月 1 日から平成 16 年 9 月 30 日まで) の業績につきまして概略下記ご説明申し上げます。

【連 結】

( 1 ) 連結業績の主要数値

売 上 高	1 4 , 6 2 6 百万円 (前年同期比 +2,428 百万円、 +19.9%)
営 業 利 益	1 , 0 5 1 百万円 (前年同期比 +472 百万円、 +81.6%)
経 常 利 益	1 , 0 4 3 百万円 (前年同期比 +467 百万円、 +81.3%)
第 3 四半期 (当期) 純利益	5 2 3 百万円 (前年同期比 +352 百万円、 +206.3%)

( 2 ) 事業別売上高

派 遣 事 業	8 , 5 8 3 百万円 (前年同期比 +1,823 百万円、 +27.0%)
請 負 事 業	5 , 9 8 6 百万円 (前年同期比 +795 百万円、 +15.3%)
製・商品等販売事業	4 3 百万円 (前年同期比 195 百万円、 81.9%)
教 育 事 業 等	1 3 百万円 (前年同期比 +5 百万円、 +63.1%)

当社グループの中核事業であります派遣、請負事業は依然高い成長にあり、売上高は対前年同期比で約 2 割の伸びを持続しております。かかる環境の中で経常利益率が平成 16 年中間決算 (平成 16 年 1 月 1 日から平成 16 年 6 月 30 日まで) 時に比べ 0.6%低下 (7.7% → 7.1%) しましたが、その主たる要因は請負事業におけるモノづくり分野での顧客との製品検収 (= 売上) が、第 4 四半期 (平成 16 年 10 月以降) になったことによるものです。因みに前年同期と比較した経常利益率は 4.7%から 7.1%へと上昇しており、8 月 18 日付平成 16 年 12 月期連結業績予想 (売上高：19,800 百万円、経常利益：1,350 百万円、当期純利益：680 百万円) 通りに推移しております。

【個 別】 (株式会社アルプス技研)

( 1 ) 個別業績の主要数値

売 上 高	1 2 , 7 7 7 百万円 (前年同期比 +2,210 百万円、 +20.9%)
営 業 利 益	9 5 1 百万円 (前年同期比 +325 百万円、 +52.0%)
経 常 利 益	9 8 8 百万円 (前年同期比 +341 百万円、 +52.8%)
第 3 四半期 (当期) 純利益	4 3 9 百万円 (前年同期比 +138 百万円、 +45.8%)

( 2 ) 事業別売上高

派 遣 事 業	7 , 9 9 8 百万円 (前年同期比 +1,661 百万円、 +26.2%)
請 負 事 業	4 , 7 7 4 百万円 (前年同期比 +547 百万円、 +12.9%)

派遣事業による売上は第 1 四半期以来 +25% (対前年同期比) 程度の成長、またモノづくり部門での売上が前年同期の 2.3 倍という状況で請負事業売上は 2 桁台の成長にあり、総売上高は前年同期より 20%増で推移しています。この結果派遣事業による売上高構成比は、中間期の 61.8%から 62.6%へと高まりました。一方経常利益率は中間期の 8.2%から 7.7%へと 0.5%低下しました (前年同期比では +1.6%) が、連結業績でご説明申し上げましたようにモノづくり部門での検収 (= 売上) が第 4 四半期 (平成 16 年 10 月以降) になったことによるものであります。

(3) 売上高上位 100 社 (総売上の 82%) による主要業種別売上

	売上高 (百万円)	前年同期比	構成比 [前年同期]
輸 送 機 器	2,419	+25.8%	23.2% [22.9%]
電 機 機 器	4,206	+37.7%	40.4% [36.4%]
精 密 機 器	2,141	+15.6%	20.5% [22.0%]
情 報 処 理	1,248	+3.1%	12.0% [14.4%]
通 信 (含む機器)	188	8.0%	1.8% [2.4%]
そ の 他	219	+40.0%	2.1% [1.9%]
上位 100 社合計	10,424	+24.0%	100.0%

輸送機器と電機機器業種に対する売上が増が顕著ですが、輸送機器の中でも自動車本体メーカーへの売上が前年同期より 59.0% 増 (トヨタ自動車: +202.4%、日産自動車: +76.3% など) となり、自動車本体メーカーへの売上高構成比は前年同期の 3.9% から 5.0% へととなっております。

また電機機器では、半導体関連業種がデジタル化の影響を受け一時の不況から脱出した感があり、半導体関連業種への売上は前年同期比で +236.8%、売上高構成比は 3.8% から 10.3% へと高まりました。なお同業種への売上高のうち約 6 割がモノづくり部門での受注生産による売上です。

(4) 派遣の稼働率、稼働時間、単価

	平均 (前年同期)	除く 04 年新卒
稼 働 率	95.8% (94.4%)	98.0%
稼 働 時 間	185H (182H)	186H
単 価	3,218 円 (3,184 円)	3,257 円

単価につきましては、前年同期に 3,184 円であった技術者が今期の第 3 四半期では 3,257 円になったということで、その改定率は +2.3% であります。

なお 8 月 18 日付通期個別業績予想における派遣売上前提は、稼働率: 96.0% (除く新卒 98.0%)、稼働時間: 184H (除く新卒 186H)、単価: 3,220 円 (除く新卒 3,250 円) でしたので、ほぼ予想通りの稼働で推移しております。

その結果個別業績も、8 月 18 日付平成 16 年 12 月期個別業績予想 (売上高: 17,200 百万円、経常利益 1,320 百万円、当期純利益: 620 百万円) 通りに推移しております。

以上